

栄光に向かって走る

令和7年10月27日
昭島市立拝島中学校
第3学年 進路だより No.7

—— 10月の三者面談の目的

さて、今回の三者面談では、大きく以下の2点について、考えを確認します。

- (1) 受験(受検)する上級学校をしばり、やるべきことを明確にする。
- (2) 12月(早ければ11月)に実施される私立高校の入試相談に向けて準備する。
 - ・ 高校側から提示された基準を確認し、推薦入試の受験や併願優遇制度の利用が可能かどうか確認する。
 - ・ 多くの私立高校では、2学期の素内申が基準になるので、目標の基準に達しなかった場合、どうするのか明確にする。
 - ・ 期末テストまでにやるべきことを明確にする。

例) 都立A高校が第一希望で、私立B高校(素内申の基準が9科30)を、併願優遇制度を利用して受験しようと考えている場合。

パターン1

素内申が9科30をクリアした場合 → そのまま私立B高校の併願優遇制度利用の受験に向けて準備を進める。

パターン2

素内申が9科30に達しなかった場合(1足りなかった) → 英検、漢検、皆勤、部活動の継続などで+1をしてもらえる場合は、担任にその旨を伝え、併願優遇制度利用の受験に向けて準備を進める。(英検、関係の書類などが必要になります。)

パターン3

素内申が9科30に達しなかった場合(全然足りなかった) → 私立B高校の一般(フリー)受験に挑戦する。(ただし、併願優遇で多くの生徒を受け入れている学校の場合、一般受験は狭き門であることが多いです。前年度までの状況などをよく調べておきましょう。)

パターン4

素内申が9科30に達しなかった場合(全然足りなかった) → 基準をクリアしている別の私立C高校で、併願優遇制度利用の受験に向けて準備を進める。(受験の可能性が少しでもある私立高校は、必ず三者面談で担任に伝えてください。)

パターン5

素内申が9科30に達しなかった場合(全然足りなかった) → 他にいきたいと思える私立高校が見つからないので、都立A高校よりも合格の可能性が高い都立D高校に第一希望を変更し、都立高校のみの受検を行う。(併願優遇制度は利用しない。)

—— 保護者の皆様へお願い

- ※ お車での来校はご遠慮願います。
- ※ 校外模試(Vもぎなど)の結果が分かる場合は、ぜひご持参ください